

東北土を考える会夏期研修会を開催しました。

2025年10月17日



清水会長

東北土を考える会は、9月11日(木)に【**緑肥の鋤込みどうしてる?**】と題した研修会を山形県鶴岡市で開催しました。叶野幸喜さんのほ場(大豆、小麦、じゃがいも、にんじんを栽培)にて、現地研修会を行いました。



叶野さん



周辺は月山のある丘陵地



はじめに、7月15日に播種を行った緑肥(ヒマワリ、セสบニア)の細断・鋤込みの実演を行いました。トラクターメーカーや作業機メーカー数社が集まり、各社の担当者より製品説明がありました。普段なかなか見る機会のない作業機やトラクターに、みなさん興味津々な様子でした。

次に、同じほ場にて作業機の組み合わせによる鋤き込み断面の比較を行いました。「サイドカッター(有・無)+プラウ」「サイドカッター(有・無)+ミックスロータリー」の計4箇所の断面を観察しながら、意見交換を行いました。また、雪印種苗 園芸部企画グループの和田課長より、セสบニアの効果や特性、栽培する上での注意点の説明のほか、疑問に対する回答をいただきました。

その後、清水会長を司会に、ディスカッションを開催。「細断の有無や細かさによる腐食スピードの違い」「ロータリーに巻き付くような品種に対し、どう対処するか」「複数の品種を播種する際に注意すること」「緑肥に対し、手間やコストをかけて肥料を与えるべきか」といったテーマで議論が交わされました。



ヒマワリ



セสบニア

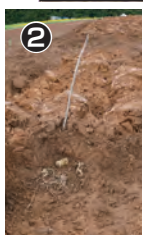


雪印種苗 和田課長

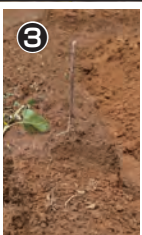
鋤き込み断面の比較	サイドカッター	
	無	有
プラウ	①	②
ミックスロータリー	③	④



①



②



③



④



研修会のあとはホテルへ移動し、情報交換会を行いました。二次会も開催され、大いに盛り上がる研修会となりました。

